結城農業かわら版

第178号
令和8年10月30日　発行元：結城地域農業改良普及センター　TEL：0296-48-0184
FAX：0296-48-2682

QRコードから
HPにアクセス

NEWS

関東ブロック農業士研究会開催

結城管内生産者の経営と技術に触れる 発表・視察

山野井氏事例発表



山野井洋蘭
代表　山野井喜仁氏
山野井君代氏（写真左）
常総市水海道山田町

令和８年度関東ブロック農業士等研究会が、10月28日から29日まで、つくば市のホテルグランド東雲で開催されました。本研究会は、関東各県の指導農業士等が一堂に会し、地域農業の課題解決や活動推進に向けて研究を深めることを目的としています。今年度のテーマは「変動の時代を生き抜く農業力」。

１日目は、茨城県女性農業士会の山野井君代氏（山野井洋蘭）が、「カトレアで世界中を笑顔に ～努力を惜しまない農業経営の実践～」と題して発表し、高品質なカトレア生産や経営改善への取組を紹介しました。

グランベリー大地視察

２日目は、リフト式栽培棚によるいちご観光農園「グランベリー大地」を視察しました。同園では多品種のいちご栽培に加え、高設栽培による省力化やバリアフリー化を推進さらに、カフェや食事処を併設し、農業体験と観光を組み合わせた事業を展開しており、６次産業化の先進事例として注目されています。





有限会社　大地
代表取締役　吉原将成氏
常総市三坂新田町
食と農の産業団地　アグリサイエンスバレー

関東ブロック農村青少年(４H)クラブ プロジェクト実績発表会出場



関東ブロック農村青少年プロジェクト実績発表会が10月28日から29日に長野県で開催され、八千代町のナシ生産者谷中渓氏が出場しました。

谷中氏は、家族や第三者（役場・普及・知人等）を巻き込みながら取り組みを開始した「事業承継」について発表しました。取り組みの結果、家庭内でのスムーズな話し合いに繋がり、現在の課題や目標、今後取り組むべき事項を家族全員で共有できたことを成果として報告しています。このほか、本県からは４名の生産者が出場し、他県の事例収集や情報交換を実施することができました。

結城地域女性農業士会食育活動開催

結城地域女性農業士会は、食育活動を通じた担い手育成や地域農業の振興に取り組んでいます。10月8日、八千代町のオハナ子ども食堂で食育活動を開催し、ブロッコリースプラウトの栽培体験を実施しました。参加者は特徴や育て方を学んだ後に種まきを体験し、約20名の親子が楽しみながら栽培について学びました。今後も地域住民との交流を深めながら、食と農の大切さを伝えていきます。



獣害対策の第一歩　代表的な中型獣を知ろう

10月23日、八千代町を会場に「中型獣類による農作物被害対策講座」が開催されました。本講座では、近年問題になっているアライグマやハクビシンによる農作物被害の現状や対策について周知されました。ここでは、それぞれの特徴について紹介します。

①アライグマ



・体重は4～10kg。　・尾を含めた長さは60～100cm。
・尾の黒いリング模様が 大きな特徴。
・指は5本で、細長い。

②ハクビシン



・尾が長く、縞模様はない。
・鼻から後頭にかけて白い帯がある。
・指は5本。

参考：茨城県農林水産部農地局農村計画課　アライグマから農作物を守る！被害防止マニュアル

長雨により収穫不能になった稲の処理について

◎残された稲は細断してすき込む

① 細断
すき込めるようにハンマーナイフモアなどにより稲を細断

② すき込み
細断した稲は、ほ場全面に均等に広げたのち、ロータリー等で土とよく混ぜ合わせ、その後も1～2回程度耕起する

※ポイント
稲の分解には、適度な温度が必要なので、できるだけ早い時期（11月末頃まで）にすき込み作業を行う

◎すき込んだ稲・籾・玄米の分解を促進

2～3週間ごとに浅耕を行い、有機物の分解を促進してガス害や漏生稲の発生を抑える。

◎その他注意点

① 漏生稲の発生防止
・代かきを2回行う。
（可能であれば間隔を7日空ける。少なくとも４日空ける。）
・田植えを平年よりも遅くする。
・漏生稲に効果の高い除草剤を使用する。（体系処理）

② 異品種混入（コンタミ）の防止
・前作およびすき込んだ米や稲と同じ品種を栽培し、
株間や畦間に漏生稲を確認した場合は速やかに抜き取る。

③ 病害に注意
・浸水被害を受けた稲にいもち病菌、ばか苗病菌、紋枯病、イネシンガレセンチュウ等が発生していた圃場では、次作でこれらの発生に十分注意し、必要に応じて防除。

④ 次の水稲作では施肥量に注意
・次年度水稲作の施肥設計では、籾米に含まれる窒素分を考慮して、2.5～3ｋｇの窒素肥料を減らす。